2005年5月19日

川西市議会議長 様

会派(呼称)名 無所属

議員名 長田拓也

管外調査報告書

このたび、管外調査をいたしましたので、その概要を下記のとおりお届けいたします。

記

1 調査者氏名

長田拓也

2 調査先

埼玉県川口市

3 調査期間

2025年 5月 15日

2025年 5月 15日

4 調査結果の概要

川口市議・菅野静香の案内で、クルド人を中心とした外国人問題について講演・住民意見交換・市内視察を実施。

1. 講演(宇山卓栄氏)

過剰な報道に注意：クルド人が「暴れている」というイメージは一部誇張。

人口実態：市は2,000人と公表するが、実際は不法滞在を含め5,000人超と推定。

仕事と経済構造：クルド人は主に安価な解体業に従事。日本人業者は撤退傾向。

摘発困難の理由：摘発が不十分で、警察・行政の対応が機能していない。教育現場の課題：仮放免の子供たちの素行・言語・通学問題が学校に影響。

2. 市民との意見交換会

静かな地域もあれば騒音・暴走・無断車使用など深刻な被害例も。

ヘイトと受け取られることへの懸念から、住民が声を上げにくい空気。

自治会が強い地域は安定しやすい傾向。

日本語指導やゴミ問題、生活ルールの違いなどが顕在化。

3. バス視察

昼間は平穏だが、夜間には異なる様相。

解体ヤード、暴動現場、爆破事件の痕跡などを見学。

川口から他地域へ拡散傾向あり。他自治体も対岸の火事ではない。

◆ 結論・所感

多文化共生推進プランの理念と現実のギャップを実感。市民は行政の不作为に不安・怒りを抱いている。少数の外国人でも、適切な対処がなければ地域の秩序が崩れる。問題の根本解決には法と政治の力が必要であり、選挙と主権者意識が鍵。